

北のとびら

vol. 134

令和6年12月



根室エリア
特集

特集 | 矢吹英孝(さっぽろ人形浄瑠璃あしり座・代表) interview

さっぽろ人形浄瑠璃 あしり座三十年のあゆみ

アート巡礼 根室エリア / つくる人 in 根室市 谷内田豊彦 / ジモトデザイン 中標津町・竹下牧場
マチカド芸術 標津町『米坂ヒデノリ彫刻群』 / ART FILE 駒澤千波

指導者の育成と技術の向上に試行錯誤だった10年



●あしり座 代表／矢吹英孝(やぶき・ひでたか)

福島県出身。北海道教育大学函館分校入学後、児童文化研究会に入会して人形劇を始める。教員を経て1991年、札幌市こども人形劇場こくま座指導員となり、1994年から八王子車人形西川古柳座五代自家元西川古柳氏に師事。1995年、あしり座設立。人形劇、人形浄瑠璃の指導・育成を行う。令和6年度北海道文化奨励賞受賞。

矢吹 北海道で人形浄瑠璃に取り組んでいるという活動が少しずつ認知され、公演の依頼も徐々に増えていきました。ただ、依頼に依るだけの技術がないというジレンマがずっとあって。

矢吹 10年の月日を経て、ようやくもっと演目を増やそうと、自分たちだけでは教えることができない。北海道で人形浄瑠璃を続けるにはまず教える技術が必須です。最初の3年間は指導者の育成を目指し、古柳師匠の協力を得て稽古を重ねました。教えるための技術と、公演を打てる技術の間で試行錯誤した10年間だったと思います。

矢吹さんと人形浄瑠璃の出会いを教えてください。
矢吹 私は1991年に札幌市こども人形劇場こくま座とやまびこ座を運営する財団法人に入りました。人形浄瑠璃との出会いは、1994年にやまびこ座が開催した人形浄瑠璃講習会に参加したことです。というのも、1988年にやまびこ座が開館した際、文楽人形作家の大江巳之助さんが

製作した「梅川」と「忠兵衛」の文楽人形2体が寄贈され館内に展示されました。巳之助さんは「人形は飾るものではなく、動かし、舞台上が上がってこそ生きるもの」と言われていたのですが、人形浄瑠璃の下手がない北海道には遣い手がおらず舞台上に上がるのができませんでした。そこで、本州から師匠を呼んで技術を学ぼうということになったんです。

矢吹さんはそれまで、人形浄瑠璃に触れたことはなかったのでしょうか？
矢吹 テレビで見たことがあるくらいで、知識は全くありませんでした。講習会への参加も、最初は人形劇の勉強になるかもしれない、という軽い気持ちで。講習会の師匠は東京の人形浄瑠璃座「八王子車人形」の家元・西川古柳師匠、参加者は私を含めて全員素人でした。



さっぽろ人形浄瑠璃あしり座

北海道で唯一の人形浄瑠璃一座として1995年に誕生。北海道から新たな気持ちで人形浄瑠璃を発信していきたいという想いを込め、アイヌ語から「あしり(=新しい)」座と命名。道民の手で人形を遣い演じ続けていくことで北海道発の新しい文化の創造を目指す。

矢吹 初舞台は講習会終了後の発表会だったのですが、私が操るのではなく、人形に私が動かされているような感覚でした。発表会を経て、講習会参加者の15名であしり座を発足しました。発足からの10年はどんな日々でしたか。

古柳師匠も頻繁に来て教えてくださいました。最初は、師匠の不在時の練習がなかなかままならず。あしり座には新人が入ってきてくれていた



矢吹英孝(さっぽろ人形浄瑠璃あしり座・代表) interview

特集

さっぽろ人形浄瑠璃あしり座 三十年のあゆみ

日本の伝統芸能・人形浄瑠璃を札幌から発信し続けている「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」。北海道に人形浄瑠璃を根付かせたいという思いで発足して30年が経ちました。あしり座のこれまでの歩み、そして見据える未来とは。代表の矢吹英孝さんに話を伺いました。

PHOTO / 舞台写真: 若松和正、表紙・インタビュー写真: 大橋泰之(マカロニ写真事務所)、満口明日花(マカロニ写真事務所)

歴史がないゆえの自由さが、あしり座の魅力

したいと思えるようになり
ました。「曾根崎心中」や
「八百屋お七」など有名な演
目を披露することで、より
多くの方に見てもらえるよ
うになりました。人形浄瑠
璃の歴史が深い徳島県に昔
住んでいたという方や、祖父
母が義太夫をやっていたとい
う方などが応援してくだ
さって、毎回足を運んでくれ
る方も増えていき、少しずつ
ですがお客さまを増やして

いくことができました。
試行錯誤の10年から、20
年までの10年は普及に力を
注いだ月日だったのですね。
矢吹 そうですね。また、発
足からの20年間で力を注い
でいたのは、子どもたちに教
えることです。やまびこ座は
子どもたちの劇場です。子
どもたちにも関わってもらい
たいと考えて、1999年
にユースクラスをスタートさ
せました。子どもたちに教え

るためには、より自分自身の
技術も磨かなくてはならな
いので、自然とモチベーショ
ンも上がりました。
あしり座は若手の座員が
在籍していますよね。30周
年を迎えるまでに大きな出
来事はありませんか？
矢吹 やはり、オリジナル演
目「大黒屋光太夫ロシア漂
流記」を完成させたことで
す。淡路島に常設館を持つ
「淡路人形座」という500

年以上の歴史がある一座がい
て、そこで毎年開催されてい
る伝統芸能のフェスティバル
に参加したことがあるのです
が、全国の伝統芸能に触れて
圧倒されたのと同時に、あら
ためてあしり座の成り立ちが
特殊であることを再認識す
ることができました。市民を
対象に講習会をして、市民劇
団のような形で立ち上がった
人形浄瑠璃は北海道だけで
す。「どうやって成り立ってい
るのか」と、注目も浴びまし
た。「大黒屋光太夫ロシア漂
流記」は、回船の船頭が漂流
の末にロシアに渡り、長い年
月を経てやっとの思いで根室
港入りしたという史実を元に
した物語。せつかくならば、北
海道らしいもの、北海道でし
かできないものを創り上げ
たいという思いから生まれた
挑戦でした。

何百年も続く歴史の上に
成り立つものとは違う、自
由さがあしり座にはありま
すよね。
矢吹 歴史がないことはコ
ンプレックスかもしれないけ
れど、むしろその自由さが
あしり座の魅力であり、誇り
でもあります。本来であれ
ば10年、20年と長い稽古の
末に舞台上に立つものですが、
あしり座は子どもたちも、
若い人たちも舞台に立つ機
会があるので新しく入って
くる人も続けますよね。
10月の30周年記念公演では
本公演とは別に若手を中心
とした「若手会公演」も披
露しました。伝統芸能は後
継者不足に悩むことが多い
と聞きますが、北海道には
それが無いというのも面白い
ですよ。



2024年6月、7月、9月に実施した子どもたちに人形浄瑠璃の魅力伝える全3回のシリーズ「子ども舞台体験プログラム ふれアート」では、三人遣いや、太鼓・銅鑼・あたりがねといった「鳴物」に挑戦。子どもたちは普段ふれることのない伝統芸能の世界に興味津々。

は繋がっているんですよ。
現代人形劇をやっている人
も、人形浄瑠璃を学ぶこと
で人形のことをもっと深く
理解することができると言
うから学ぶことができるん
です。だからこそこの伝統芸
能を私たちは残していきたい。
40周年に向けての目標は
「さっぽろ人形浄瑠璃」が無

形文化財として認められる
よう下地を創っていくこと。
大切な仲間たち、そして子
どもたちのために、50年、
100年とあしり座はこれ
からも精進し続けます。
**ロング版
インタビューを
WEBで公開中**

「さっぽろ人形浄瑠璃あしり座」の30年目の決意



「大黒屋光太夫ロシア漂流記」はロシアに漂着し、帰国した最初の日本人・大黒屋光太夫の史実に元にした物語。洋装の人形にも注目したい。

発足当初のあしり座は十数
人の人形遣いのみ。この中途
半端な状態で「人形浄瑠璃」
を名乗るわけにはいかないと
思い「人形浄瑠璃芝居」とし
たのです。ここ4、5年は太
夫と三味線を担当する義太
夫部を設け、あしり座の座
員だけで演目を担う体制も
整ってきました。「芝居」の
二文字を取ったのですが、

私たちにとってはとても大
きな出来事。北海道に「さっ
ぽろ人形浄瑠璃」を根付か
せたいという決意の表れで
もあるのです。
30周年記念公演の第二弾が
2月に控えています。
矢吹 2月の記念公演で
は「大黒屋光太夫ロシア漂
流記」の全五段を披露しま
す。完成した時がちょうどコ

ロナ禍で、一度公演が中止に
なり、翌年に感染対策を施
しながらなんとか振替公演
を遂げた演目です。あの時
代を乗り越えたという思い
入れのある作品で、30周年
記念でぜひ披露したいと
思っていました。長丁場です
が皆さんにも観ていただけ
ると嬉しいですね。
矢吹 今年も令和6年
度北海道文化奨励賞を受
賞され、40周年に向けてあ
しり座の新たな歩みが始ま
りますね。

今年北海道演劇
財団の斎藤歩さんの推薦
で、さっぽろ演劇シーズンに
も参加し、これまで人形浄
瑠璃に触れたことなかった
多くのお客さまと出会うこ
ともできました。人形浄瑠
璃を始めた当初は、人形劇
とは全くの別物だという感
覚があったのですが、30年間
続けてあらためて思うのは、
人形浄瑠璃と地続きで人形
劇もある、ということ。人形
の構造も、操り方も、すべて

information

2024.12.1
チケット
販売開始

さっぽろ人形浄瑠璃あしり座三十周年記念公演
通し狂言 **大黒屋光太夫ロシア漂流記**



【演出】西川古柳(八王子車人形西川古柳座五代目家元) 【太夫】竹本信乃太夫(弥乃太夫会)
【三味線】鶴澤弥栄(弥乃太夫会) 【美術】沢則行(人形劇師)
【出演】さっぽろ人形浄瑠璃あしり座 ほか
【日時】**2025年2月7日(金)17:30開演**
8日(土)13:30開演・9日(日)10:00開演
【会場】札幌市教育文化会館大ホール(札幌市中央区北1条西13丁目)
【料金】一般/前売:2,500円 当日:3,000円 ※教文ホールメイト会員割引あり
学生/1,000円(小学生~大学生)

●公演に関するお問い合わせ
札幌市こどもの劇場 やまびこ座内 あしり座 TEL 011-723-5911(9:00~17:00 原則月曜日休館)

根室エリアで探すアート

03 アートと共存する広大な農場 佐伯農場



- 住所 / 中標津町字俣落2000-2
- TEL.0153-73-7107
- アクセス / 中標津交通センターから車で30分
根室中標津空港から車で20分
- 開館時間 / 10:00~17:00 ●定休日 / 水曜、木曜
- 入館料 / 無料 ●駐車場 / あり
- <https://www.instagram.com/masaki1206/>

中標津町ゆかりの版画家・細見浩や富田美穂など多くの作家たちの作品を展示するサイロを再利用した「荒川版画美術館」、現代彫刻家の作品や家具を展示する「ギャラリー倉庫」などを所有する牧場。農場内にアトリエを設け、アーティストに創作の場も提供しています。

04 豊かな大自然や動物の写真を展示 野付半島ネイチャーセンター



- 住所 / 別海町野付63
- TEL.0153-82-1270
- アクセス / 中標津空港から車で40分
- 開館時間 / 9:00~17:00(10月~3月は16:00まで)
- 休館日 / 12月30日~1月5日 ●入館料 / 無料
- 駐車場 / あり
- <https://notsuke.jp/>

「野付半島ネイチャーセンター」は野付半島の自然や歴史を紹介する施設。2階ギャラリーでは月替わりで野付の自然や動物を収めた写真展や版画展を実施しています。12月14日(土)・15日(日)は初の試み「のつけパードランドフェスティバル」を開催。野鳥観察ツアーやフォトコンテストを行います。

05 アート作品の展示と厳選された雑貨が並ぶ 明郷伊藤☆牧場



- 住所 / 根室市明郷101-21
- TEL.0153-26-2798
- アクセス / 根室交通「明郷伊藤牧場前」バス停からすぐ
- 営業時間 / 10:00~17:00
- 定休日 / 無休(お正月を除く) ●駐車場 / あり
- <https://www.akesaitoitoirym.com/>

景観デザインで高い評価を受ける「高野ランドスケーププランニング」が設計したアートな牧場。牧場内の「ちいさな雑貨屋Étable & 酪農喫茶GrassyHill」は、道内アーティストを中心とした作品の展示や、牛をモチーフにした雑貨が並びます。トリックアートのバス待合所も人気。



Art JUNREI

アート巡礼

刺激がいっぱい

根室エリアのアートスポット

01 知床・羅臼の大自然を写す写真を展示 道の駅「知床・らうす」



- 住所 / 羅臼町本町361-1
- TEL.0153-87-5151
- アクセス / 阿寒バス「羅臼本町」から徒歩1分
- 営業時間 / 9:00~17:00(5~10月)
10:00~16:00(11~4月)
- 定休日 / 無休(年末年始を除く)
- 入館料 / 無料 ●駐車場 / あり
- <https://www.hokkaido-michinoeki.jp/michinoeki/2217/>

2階の展望スペースに「知床羅臼写真コンテスト」の2024年度応募作品を展示。この地域に生息する生き物たちの迫力や臨場感、自然の美しさを感じられる作品が揃っています。最優秀賞に輝いた「知床の海鷲」、生き物部門賞を獲得した「熱視線」は必見。大自然を写真で体感できるスポットです。

02 多彩なイベントを開催する音楽スポット café&music bar site



- 住所 / 標津町南2条西1丁目1-5
- TEL.0153-82-2316
- アクセス / 阿寒バス「郵便局前」から徒歩3分
- 営業時間 / café 11:00~17:00 bar 19:30~24:00
- 定休日 / 不定休 ●駐車場 / あり
- <https://www.facebook.com/site0515/>

オープン4年目を迎えるカフェ&ミュージックバー。お昼は標津産シカ肉シチュー(ランチ限定)などの人気メニューが楽しめるカフェ、夜は楽器体験やライブ、DJイベントなどを開催するミュージックバーとして営業しています。音楽好きが集まる居心地の良い空間です。

日常に溶け込むデザインの魅力に迫る！

牛と、新しい関係を。



takehita farm

NAKASHIBETSU・HOKKAIDO

▲竹下牧場の企業理念とロゴ



デザインと共に
事業を開拓する
竹下牧場

◀ロゴをあしらった商品パッケージ。親しみのある商品名も魅力。

先 代の竹下日吉さんが中標津町に入植したのは1956年のこと。竹下牧場の歴史は日吉さん自ら未開の原野を開墾し、始まりました。「この地で生きる覚悟を決めた時からいつも力になってくれた牛たちに感謝」「酪農を生業にできたのも、牛のおかげ」、そんな先代の想いは2代目の竹下耕介さんに受け継がれています。「私たちにあって、牛は牛乳や肉をわけてくれる以上に大切な存在です。その素晴らしさや価値をもっと世の中に伝えたい」と竹下さんは話します。

企業ブランディングの開発に着手したのは、2017年秋。牧場の経営自体は安定していた一方、一般消費者との距離が遠くなっていることを危惧していた時期でもありました。今一度、牧場としての軸を明確にすることで、スタッフとこれからのビジョンを共有

し、竹下牧場のファンを増やすことをゴールに見据えての一步でした。さっそく知り合いのデザイナーに相談し、クリエイティブディレクターの寺田侑司さんと、コピーライターの東井崇さんに出会います。「私は伝えたいことをよりわかりやすく、魅力的に伝えてくれるデザインを信じています」という竹下さんの期待に応えるように、東井さんが丁寧なヒアリングを重ねて生まれたのが、「牛と、新しい関係を。」という企業理念です。

寺田さんがデザインしたロゴマークは、頭文字「T」の中に、牛と人の顔を1:1の比率で並べ、牛と人間が対等に生きる“新しい関係”を表現し、「牛ともっと近い関係で寄り添って生きてほしい」「牛という動物をもっと好きになってもらいたい」をカタチにしました。「自分のアイデアや拙い言葉を形にしてくれるプロの力があってこそ生まれたもの」とその仕上

りに感心したという竹下さん。WEBサイトのデザインにも着手し、本格的なブランディングがスタート。さらに「自分の牧場だけでなく、まちの未来を考えるようになった」という竹下さんは、チーズ・スープの製造事業、宿泊事業としてゲストハウス「farm villa taku」をオープンさせるなど、「たくさんの人に中標津の魅力を知ってほしい」と人

を呼び込む仕掛けづくりにも尽力しています。2021年には竹下牧場の理念や取り組みが評価され「GOOD DESIGN AWARD 2021」のブランディング部門を受賞。酪農の枠にとらわれず、新しい分野を牛たちと共に力強く開拓していく竹下さんは「実はまたちょっと面白いことを考えているんです」と茶目気たっぷりに語ります。開拓者の挑戦は、まだまだ続きそうです。



◀牧場から離れた町の中心部に作ったゲストハウス「ushiyado」。牛舎をモチーフにした空間づくりもユニークだ。



◀2023年夏、牧場の敷地内にオープンした「farm villa taku」は8名まで宿泊可能な一棟貸しの宿。特製チーズやポタージュスープ「LETTER SOUP」などをウェルカムフードとして提供。



サテンドール店主 / ニュー・ネムロ・ジャズ・クラブ代表 谷内田豊彦

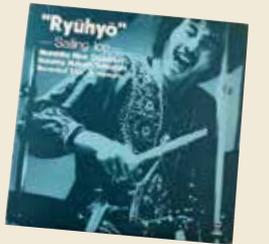
根 室駅前前のビルの一角に店を構えるジャズ喫茶「サテンドール」。約2600枚のレコードが並び、この店は、全国のジャズファンにとって憧れの場所です。「兄はジャズ狂、私はロック好きでした」と話すのは店主の谷内田豊彦さん。2021年、初代店主で兄の一哉さんから頼まれて、30年ぶりに関東から根室に戻り、店を継ぎました。「私は8人兄弟の末っ子で、15歳離れた長男の一哉は遠い存在。それでも兄が私に声をかけたのは、ジャンルは違えど兄弟の中で唯一音楽が好きだったからだそうです」と振り返ります。「サテンドール」は、1965年に一哉さんが仲間たちと発足した「ネムロ・ホット・ジャズクラブ」のホーム基地として1978年に開業。同クラブは「地理的に最果てであっても、文化的な最果てに「あらず」をスローガンに、地方都市でも音楽を楽しめることを発信し、その強いジャズ愛はやがて、全国に認知されるように。日野皓正や渡辺貞夫などの著名ジャズメンが訪れ、根室を「ジャズの街」と



谷内田豊彦 (やちだ・とよひこ)

根室市生まれ。2021年に関東から根室に戻り、サテンドール3代目店主となる。2023年、「ニュー・ネムロ・ジャズ・クラブ」を発足。会長を務めている。
●サテンドール
根室市大正町1-24
営業時間10:00~19:00
TEL:080-5483-5652

言わしめる端となった歴史あるクラブです。店を継いで以来、店内でジャズをひたすら聴き続けたいという谷内田さん。「兄からの唯一のアドバイスは知ったかぶりをするな、ということ。勉強させてくださいと素直に伝えて、お客さまのジャズ談義に耳を委ねるのがとても楽しいです」。店内で過ごす時間は、ジャズへの愛着、店主としての覚悟を培っていききました。2023年4月、谷内田さんは「ニュー・ネムロ・ジャズクラブ」を発足。「来年で60周年を迎えるネムロ・ホットジャズクラブは歴史があるゆえの敷居の高さがあります。ジャズの街・根室の灯を消さないために、もっと気軽に楽しめる場を作ろうと思いました」とその意図を語ります。「会員制ではなく自由参加で、月に一度、テーマを決めて集まります。お気に入りの音源を持ち寄り、ジャズを鳴らし続けます。「思えば、店を継いでからの1年間がもっとも兄と会話をした日々でした」という谷内田さん。音楽の豊かさが繋いだ兄弟の想いと共に、サテンドールは最果ての地でジャズを鳴らし続けます。初代店主の一哉さんは2022年8月に死去。



◀谷内田さんのお気に入りの一枚は、日野皓正の弟でドラマー・日野元彦の「流水」。1976年に根室で行われたライブがレコーディングされたものです。





暮らしの中の感覚や感情がモチーフに

子 どもの頃から絵を描くことが好きだった私は、中学時代に北海道近代美術館で行われた「東山魁夷展」に行き、初めて日本画と出会いました。「蝦夷の白い馬シリーズ」に一目惚れし、部屋にポスターを貼ったり、お小遣いを貯めて画集を買ったり。絵の具の色や絵肌の美しさに魅了され、日本画に興味を抱き始めました。中学3年生の時に美術教師から将来の選択肢のひとつとして美術系の大学を紹介され、美術を自分の進路として考えるようになりました。

高校時代から美術の予備校に通い、浪人を経て北海道教育大学芸術文化課程美術コースに進学。大学では日本画の研究室に所属していました。

大学時代は「描くこと」を中心

に過ごしていましたが、卒業後は「仕事」と「生活」が中心。「描くこと」の優先順位が低くなり、制作を続けることが当たり前ではないことを知りました。これは、ある種のカルチャーショックだったと思います。そこで私は「何を描くか」だけではなく「継続すること」を意識するようになりました。公募展や個展、グループ展など展示機会が定期的にあつたことや、制作仲間たちのおかげで20年間描き続けることができている。

日本画の魅力は、絵具自身を持つ素材感と、色の美しさにあると思います。岩絵具や墨、和紙や絹などの素材は、日本画の特徴の一つ。現代において日本画の定義は作家によって異なりますが、私は使用する素材や技法によるものが大きいのではと考えて

います。

作品のモチーフになるのは、日々の生活。日常の中で自分の感情が動いた瞬間や、ふとした時に感じる感情や感覚から発想を広げ、作品テーマを決めることも多いです。

最近は、木、絹、和紙など様々な素材に挑戦していて、譲ってもらった夜光貝のカケラを白い絵具として使用しています。絵具自身が持つ実在感と作品世界の融合を目指しています。

1年前から始めた木のシリーズ(写真・右)は、木目や木の形を見ながら、何を描こうと考えたり、木目から想像を膨らませたりする時間が楽しいです。描きながら木の力をいただいている気持ちになり、それが創作の原動力になっています。

今回の個展テーマは「つなぐ、つなげる」。4歳の娘がひらがなに興味を持ち出したので、「今しかない」と思い、つくり始めた「あいうえお」(写真・左)がメイン作品になります。ひらがなの一文字一文字、娘と一緒にしりとりのように発想を広げて絵文字を描いています。個展スタート時は半分、年明けの展示替えでは「わをん」までの50音を全て揃えますので、ぜひ足を運んでください。

駒澤千波

美唄市生まれ、石狩市在住。身近な感覚や感情を出発点に、命や物語を内包した作品づくりに取り組んでいる。

2004年、北海道教育大学札幌校芸術文化課程美術コース卒業、2006年に同大学教育学研究科教科教育専攻美術教育専修修了。北海道美術協会会員、北の日本画展会員、北海道イラストレーターズクラブアルファ会員。
●<https://chinamikomazawa.com/>

北海道文化財団アーツスペース企画展 vol.58

駒澤千波『はじまりの音』

2024.12.16～2025.2.12 9:00～17:00 ※土日祝年末年始(12/30～1/3)休館 ※都合により臨時休館する場合があります。

場所／札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル3F 問い合わせ／011-272-0501

入場
無料



詳しいSTORYはWEBで



標津町生涯学習センター「あすばる」の敷地内に建つ3体のシマフクロウ「集い」と5体のサケ「帰郷」。木陰に佇むこの彫刻群は、釧路市の彫刻家・米坂ヒデノリの作品です。

募集中の事業・公演等

●令和7年度事業募集のご案内

北海道文化財団では、令和7年度に北海道内の地域文化団体や市町村等が主催して実施する事業の募集を行っています。

【募集する事業】

- ・まちの文化創造事業(共催)
- ・アドバイザー派遣事業(共催)
- ・アートシアター鑑賞事業(共催)
- ・こどもアート体験事業(主催)
- ・文化交流事業(助成)

【対象団体】

- ・地域文化団体
- ・市町村
- ・市町村教育委員会
- ・実行委員会
- ・公立文化施設の管理・運営団体 等

【提出期限】

2025年1月31日(金)必着

【提出方法】

期限までにメールで送付してください。
メールアドレス: keikaku@haf.jp



提出書類、結果通知時期、留意事項など詳細については、財団ホームページ「令和7年度事業募集 (https://haf.jp/project_r6.html)」をご確認ください。

【お問い合わせ】

公益財団法人北海道文化財団
電話: 011-272-0501 (平日8:45～17:30)
メールアドレス: keikaku@haf.jp
財団ホームページ: <https://haf.jp/>

●山本卓卓の高校生のための劇作ワークショップリーディング発表

作家、演出家、範田遊泳代表の山本卓卓さんを講師に迎え、高校生のための劇作ワークショップを開催し、ワークショップで創作した作品をリーディングとして発表します。

リーディング発表

- ・開催日時: 2025年1月8日(水) 15:00～16:00
- ・会場: 扇谷記念スタジオシアターZOO
(札幌市中央区南11条西1丁目 ファミール中島公園地下1F)

講師: 山本卓卓(やまもと すぐる)

作家・演出家。範田遊泳代表。幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築。オンラインで創作する「むこう側の演劇」や、子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこどもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。アジア諸国や北米での公演や国際共同制作、戯曲提供も多数。



『幼女X』でBangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。『バナナの花は食べられる』で第66回岸田國土戯曲賞を受賞。

リーディング発表の詳細については、12月中旬に財団ホームページ (<https://haf.jp/>) でお知らせします。

開催予告

●アートカフェ事業

様々なジャンルで活躍するアーティストをゲストに迎え、アートを通して豊かな時間を過ごす「アートカフェ事業」。
今回は、イラストレーター・五月女ケイ子さんをお迎えし、これまでの足跡や作品などについて語っていただきます。

- ・開催日時: 2025年3月24日(月) 19:00～20:00
- ・会場: 札幌文化芸術交流センター SCARTSコート
(札幌市中央区北1条西1丁目)
- ・定員: 80名(先着順)
- ・参加料: 1,000円
- ・申込開始: 2025年1月中旬から、財団ホームページにて受付(先着順)

ゲスト: 五月女ケイ子(そおとめ けいこ)

イラストレーター / エッセイスト / 漫画家

2002年に発売された『新しい単位』(扶桑社)がベストセラーに。その後、さまざまな媒体で独特のインパクトと味わい深いイラストを随時放出中。2010年に娘を出産。妊娠時から3歳までの育児エッセイをまとめた『親バカ本』(マガジンハウス)も話題に。他に、古事記を独自の目線でマンガ化した『五月女ケイ子のレッツ!! 古事記』(講談社)や、劇場版も公開されたアニメ『バカ昔ばなし』などがある。LINEのスタンプ『五月女ケイ子のご挨拶スタンプ』も好評発売中。

お申込み方法など詳細については、2025年1月中旬に財団ホームページ (<https://haf.jp/>) でお知らせします。

●北海道舞台芸術情報フェア2025

舞台芸術の公演企画の最新情報を道内の市町村や文化施設等に提供し、次年度事業の検討に資するとともに、文化施設等と公演企画団体の相互の連携を図ることを目的として、毎年「北海道舞台芸術情報フェア」を開催しています。
「北海道舞台芸術情報フェア2025」は、令和7年7月に開催を予定しています。

詳細については、後日改めて財団ホームページ (<https://haf.jp/>) でお知らせします。

INFO

WEBマガジン「北のとびら」。
冊子にはない情報も!ぜひご覧ください。



WEBマガジンはこちらから!

<https://haf.jp/kitanotobira/>